

平成 20 年 6 月 2 日
東 京 都

小笠原航空路の開設について

1 交通アクセスの現状

小笠原諸島と本土との交通アクセスは、片道所要時間が約 2 6 時間、週約 1 便の航路のみ

2 航空路の必要性

医療や福祉の分野などの島民生活安定や観光振興を中心とする産業経済の活性化など、航空路開設は小笠原振興・発展を図る上で大きなメリット

3 これまでの検討状況

- 平成 18 年 11 月 ・ 東京都が小笠原諸島振興開発計画を変更し「航空路について将来の開設を目指し検討」と明記
- 平成 19 年 11 月 ・ 小笠原村が村民に対し、航空路説明会を実施
- 12 月 ・ 小笠原村が航空路の必要性について村民アンケートを実施
- 平成 20 年 1 月 ・ 村民アンケートの結果、回答した村民の 7 割強が航空路を必要と意思表示
・ 小笠原村が東京都に対し、P I 協議会の設置を要請
・ 小笠原村議会が東京都に対し、「小笠原空港開設推進に関する決議」を提出
- 2 月 ・ 東京都と小笠原村で、航空路開設について検討を進めるため「小笠原航空路協議会」を設置
- 4 月 ・ 小笠原村父島で「第 1 回小笠原航空路協議会」を開催

小笠原諸島振興開発計画(抜粋)

本土との交通アクセスを改善するため、自然環境との調和に十分配慮した航空路について将来の開設を目指し検討を進める。この検討を行うため、村民合意を前提に、東京都と小笠原村で協議会を設置し、情報公開を行いながら、関係者間の円滑な合意形成を図り、P I を実施する。

東京都は、自然環境への影響、費用対効果、運航採算性、安全性等について総合的に調査・検討を行い、P I に反映させる。